

三木歴史・美術の杜^{もり}構想

平成24年6月

三木市教育委員会

目 次

第1章 構想策定の主旨	1
1 構想策定の背景と経緯	
2 構想策定の目的	
第2章 区域の概要	2
1 三木城址	
2 周辺の歴史・文化遺産	
3 付城跡群	
第3章 三木歴史・美術の杜構想の考え方	6
1 基本理念	
2 基本方針	
3 整備の課題と方向性	
第4章 三木歴史・美術の杜を活かしたまちづくり	8
1 歴史の継承	
2 市民の憩いの場の創出	
3 まちの活性化	
第5章 三木歴史・美術の杜の整備イメージ(例)	10
1 本丸跡	
2 二の丸跡	
3 周辺及び付城跡群	
4 整備イメージ図(三木城址ゾーン案)	
【資料編】	
・三木歴史・美術の杜構想の整備スケジュール及び概算総事業費(案)	13
・三木城址現況施設一覧表	14
・平成22年度三木市市民アンケート結果	15
・平成23年度「歴史博物館」と「図書館」についての 市民アンケート結果	16
・歴史・美術の杜構想検討委員会の開催状況	17
・歴史・美術の杜構想検討委員会委員名簿	18

第1章 構想策定の主旨

1 構想策定の背景と経緯

三木市は、今から約430年前、天下統一をめざす織田信長の命を受けた羽柴秀吉と戦国大名毛利輝元くみに与した東播磨の守護代で三木城主別所長治との間に起こった「三木合戦」の舞台となりました。

そして、当時の攻防の様子が三木城址をはじめ、城下であった市街地には戦で亡くなった武将の墓標、城下を取り巻く丘陵部には織田方が築いた付城跡群つけじろとして今に伝わる貴重な歴史・文化遺産となっています。

三木城址は、明治時代に本丸跡が「上の丸公園」となり地域住民に親しまれてくるとともに、昭和期には、学校、図書館、美術館、保育所などの教育施設等が整備され、文教ゾーンとして活用されています。

また、平成12年度から、議会において特別委員会が設置され「城址公園」として、歴史性を活かす整備の方向性が議論されており、平成18年からは、教育委員会に「三木城址及び付城跡群学術調査検討委員会」を設置し、三木城址及び付城跡群つけじろを国の史跡指定（以下「国史跡指定」という。）に向けて本格的な学術調査を進めています。

2 構想策定の目的

三木市は、歴史に残る三木城址及び織田方が築いた付城跡群つけじろを歴史遺産として、後世に保存、継承していかなければなりません。

そこで、三木城址及び付城跡群つけじろを市民の貴重な財産として保護するとともに、城下町も含めそのエリアを、ひとつの大きな博物館（フィールドミュージアム）に見たて、歴史の継承、市民の憩いの場の創出、まちの活性化に取り組むことを通して、まちの魅力を全国に伝え、市民の夢を育み、誇りとなるような三木のまちづくりを進めます。

つけじろ付城・・・敵城を攻めるとき、それに相対して築く城（向かい城）

フィールドミュージアム・・・ある特定の区域全体をひとつの大きな博物館や美術館ととらえること

第2章 区域の概要

1 三木城址

三木城址は上の丸台地上に築かれた丘城で、本丸・二の丸を中心とし、新城・鷹尾山城・宮ノ上要害（ようがい）で構成され、各曲輪（くるわ）が並立する構造となっています。規模は東西約 550m、南北約 450m で、南側は山と谷、他三方は崖に囲まれています。南側に鷹尾山城と宮ノ上要害（ようがい）を配置し、背後の防御性を高めています。

本丸跡は明治以降に上の丸公園として整備され、市民公園に位置付けされています。

二の丸跡は昭和 2 年建築の旧三木高等女学校校舎（旧上の丸庁舎）や図書館・美術館が建ち並び、文教ゾーンとしての役割を果たしています。

新城跡は昭和 35 年頃に住宅開発が進み、現在は住宅地となっています。

鷹尾山城跡は昭和 57 年に文化会館建設に伴い、発掘調査後に大部分が消滅しましたが、西側部分が現存しています。

宮ノ上要害跡（ようがい）は現在三木市上下水道部庁舎となっており、その姿をとどめていません。

(1) 本丸跡

本丸跡には三木城遺構（いこう）の伝天守台（でんてんしゅだい）やかんかん井戸のほか、明治以降につくられた忠魂碑や慰霊碑などの石碑、地藏、金物神社、上の丸保育所、東屋などがあります。

平成 2 年度には東屋建設に伴う発掘調査を、平成 15、18、19 年度には学術調査として遺構（いこう）の広がりや遺存状況を確認する発掘調査を三木市教育委員会が実施しました。その結果、瓦葺き礎石建物が存在していたこと、本丸を堀で区画していたことが分かっています。

なお、伝天守台（でんてんしゅだい）は堀が埋まった後に造成されたことが明らかとなりました。

遺物は本丸・二の丸ともに土師器（はじき）皿・瓦が多くを占め、備前焼、中国産の磁器、瀬戸美濃焼なども出土しました。中心時期は戦国時代後半とみられます。

要害（ようがい）・・・戦略上、重要な場所に築いたとりで

曲輪（くるわ）・・・城における、切り盛りで造成された平坦面

遺構（いこう）・・・遺跡における建物跡や溝、墓などの施設跡の総称

伝天守台（でんてんしゅだい）・・・天守台があったとされる場所

土師器（はじき）・・・主に古墳時代から中世にかけて用いられた素焼きの土器

(2) 二の丸跡

二の丸跡には旧三木高等女学校校舎（旧上の丸庁舎）や図書館・美術館などがあります。

昭和 56 年度には図書館・美術館の建設に伴う発掘調査を、平成 16～18 年度には学術調査として遺構の広がりや遺存状況を確認する発掘調査を三木市教育委員会が実施しています。特に昭和 56 年度調査において、埋められた備前焼大甕群やL字状の内堀と土塁の痕跡、外堀、井戸、溝などの遺構が検出されました。



三木城跡遺跡範囲図

- 遺跡の範囲
- 消滅した遺跡の範囲

土塁・・・・・・敵の侵入を防ぐため、城の周囲に築かれた連続した土盛り

2 周辺の歴史・文化遺産

三木城址周辺には、別所長治の首塚や別所氏ゆかりの鉄鎧（市指定文化財）がある「雲龍寺」、国登録文化財の「旧玉置家住宅」や「小河家住宅」（旧小河家別邸）などがあります。

また、羽柴秀吉が三木合戦の時に整備したとされる有馬に続く「湯の山街道」があり、街道沿いには古い民家が点在し、虫籠窓や卯建、船板塀といった昔の風情を感じさせるものが残っているほか、秀吉ゆかりの小袖（市指定文化財）や蒔絵箱（市指定文化財）が残る「本長寺」、秀吉の制札（市指定文化財）が残る「本要寺」があります。（下図参照）

さらに、秀吉方の武将である谷大膳や竹中半兵衛の墓があるほか、三木合戦絵解き（市指定文化財）が行われる法界寺などがあります。



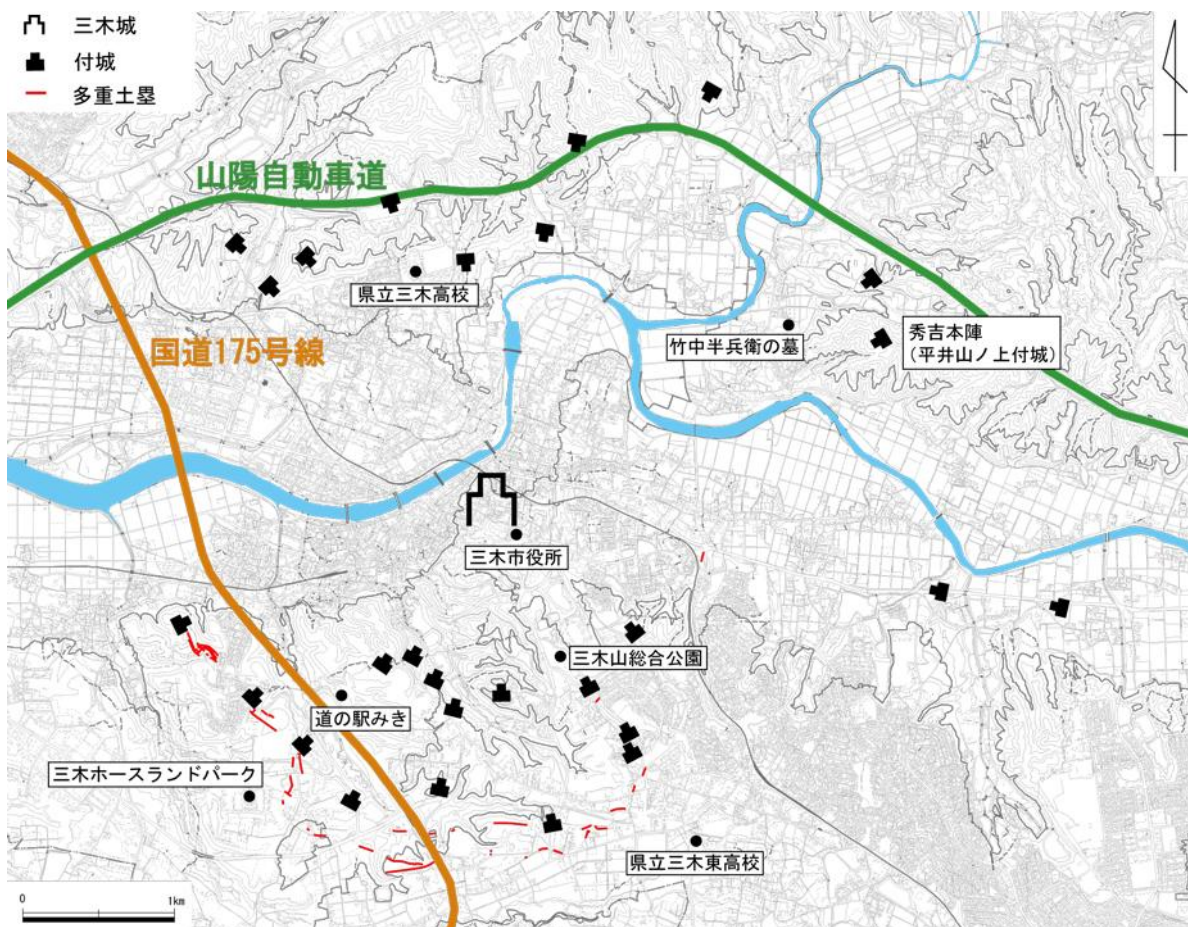
三木城址周辺図

- 鎧（あぶみ）・・・馬具の一種。鞍の両脇につるして、乗り手が足を踏みかけるもの
- 虫籠窓（むしこまど）・・・虫かごのように目の細かい格子を入れた窓
- 卯建（うだつ）・・・建物の外側に張り出して設けた防火用の袖壁
- 船板塀（ふないたべい）・・・船板の古材で作った塀
- 蒔絵（まきゑ）・・・器物の表面に漆で文様を描き、金・銀などの金属粉や色粉を蒔きつけて付着させる、日本独自の漆工芸
- 絵解き（ゑげき）・・・毎年、4月17日に絵図と語りで、22か月にもわたる別所軍と羽柴秀吉軍の戦いを再現する「三木合戦絵解き」が行われます。

3 付城跡群

三木合戦の際、織田方は三木城攻略のために平井、与呂木、安福田にわたる尾根に本陣を置き、三木城周辺に数多くの付城と呼ばれる陣城を築きました。特に南側の付城群は多重土塁で連結して包囲網を形成し、兵糧攻めを行いました。付城は三木城の周囲を東西約 6 km、南北約 5 km の範囲に推定も含めて 40 城余りが存在していたとみられます。三木市が遺跡として把握しているものは 27 城あり、そのうち明確な遺構を残しているものは 20 城を数えます。

三木城から美囊川を隔てた北側の山上に築かれた付城跡は、山の地形に合わせて曲輪を上下に連ねる構造のものが多く、背後の尾根続きに堀切などがほとんど見られないことから、防御性は薄いと考えられます。一方、三木城の南側の山上に築かれた付城は平坦な台地上に築かれています。これらは、土塁をめぐらした曲輪を屈曲させたり、堀を設けるなど防御性をたかめています。これは、毛利方が明石から三木城へ兵糧を搬入するのを防ぐためより高度な築城技術が用いられていたものと考えられています。



三木城及び付城跡群図

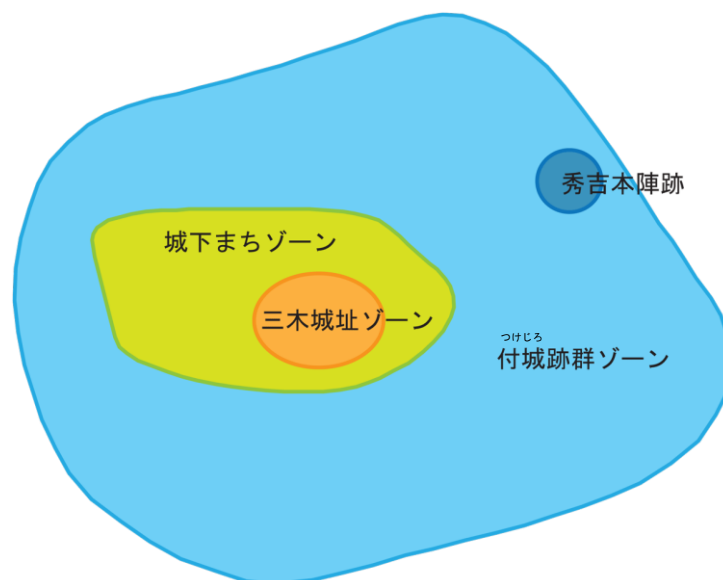
堀切・・・尾根を断ち切って設けた防御施設

第3章 三木歴史・美術の杜構想の考え方

1 基本理念

三木合戦の歴史的な遺産である三木城址及び付城跡群を保存、整備するとともに、三木の歴史・文化などを結ぶ動線を確立します。また、中核となる施設（仮称）「三木歴史資料館」や動線上にギャラリー機能、まちづくり推進・交流機能を備えた情報拠点を配置するなど、三木城址や城下町を含む付城跡群で囲まれた区域全体をフィールドミュージアムに見たてて「三木らしさ」を演出し、「みき歴史・美術の杜みゅーじあむ」として三木の歴史、文化の情報を全国に発信します。

◆ 「みき歴史・美術の杜みゅーじあむ」のゾーンイメージ



三木城址ゾーン	三木城址を中心とした本構想のセンターゾーン
城下まちゾーン	旧城下であった中心市街地
付城跡群ゾーン	秀吉本陣跡を核として城下町を取り巻くように配置された付城跡群がある丘陵

2 基本方針

基本理念に基づき「みき歴史・美術の杜みゅーじあむ」を実現するための基本方針を以下のように設定します。

- (1) 歴史の継承
- (2) 市民の憩いの場の創出
- (3) まちの活性化

三木らしさ・・・先人から受け継いできた三木独自の文化や歴史、また、今後新たに創出される三木独自の文化や歴史
みゅーじあむ・・・やわらかく夢のあるネーミングとして「ひらがな」を使用

なお、事業実施にあたっては、以下の点に配慮しながら推進します。

- (1) 三木合戦をテーマとした文化創造
- (2) 現有地域資源の活用
 - ア 既存事業の活用・連携
 - イ 費用対効果の高い事業の優先的取組
- (3) 市民参加の仕組づくり
- (4) 市民協働による事業の推進

3 整備の課題と方向性

この構想を進めるためには、以下のことについて整備する必要があります。

(1) 三木城址

国史跡指定を受け、景観的にも城址の雰囲気とは異なる建物や石碑などは、移設や撤去し、将来的には城址として当時の姿が感じられるような整備をめざします。

また、三木城址への道路の狭さと、案内板や誘導サインが不十分なことにより、車や最寄駅などからのアクセスがしにくい状況にありますが、これらの課題は、城址の雰囲気にも配慮し、統一した整備を進めなければなりません。

(2) 付城跡

現在、市内には三木城攻めの付城跡が約 20 か所が残っています。これらの付城跡についても、国史跡指定をめざしていきます。指定されたものについては、三木城址の整備と関連させながら散策ルートの設定や里山づくりの整備を計画的に進めます。

(3) 公共施設

国史跡指定地から移転する施設については、利便性のよい場所に設置することとし、市民サービスの向上に繋がるよう配慮します。

第4章 三木歴史・美術の杜を活かしたまちづくり

基本理念に基づき「みき歴史・美術の杜みゅーじあむ」を実現するため、三木城址や周辺の歴史・文化遺産、付城跡群を、まちづくりや観光の資源として活用し、市民協働によるまちの活性化を図る取組を推進します。

1 歴史の継承

三木城址及び付城跡群を保存、整備するとともに、三木合戦をはじめとした三木の歴史を次の世代の子どもたちに引き継ぎます。

- (1) 三木の歴史や文化遺産を体感できるような体験学習やイベントの開催
- (2) 幼、小・中学校での三木合戦をはじめとする歴史・文化に関する教育を充実
- (3) まなびの郷みずほ、別所ふるさと交流館などでの歴史・文化に関する生涯学習を充実
- (4) 大工塾や親子大工体験などを開催し、プロの指導の下に体験学習しながら町屋等を再生
- (5) 三木城址及び付城跡等の保存整備や国史跡指定を契機とした三木市の歴史・文化の継承、発信に携わる地域団体やボランティア、NPOの育成

2 市民の憩いの場の創出

三木城址等を市民に親しまれ、歴史に触れることのできる憩いの場とすることで、三木への愛着と誇りを育みます。

- (1) (仮称)「三木歴史資料館」を整備し、三木合戦はもとより、金物の歴史や古代から近世にわたる三木の歴史・文化を紹介、展示
- (2) 三木の歴史や文化遺産を活かした歴史講演会等の開催
- (3) 広い屋外空間を活かした美術展や金物資料館などの野外事業を開催
- (4) 何度も訪れたいくなるような、見晴らしのいい場所として城址を整備
- (5) 城下まちゾーンにおみやげ茶屋を設置し、三木のインフォメーション機能を強化

3 まちの活性化

まちのシンボルができることにより、周辺の歴史・文化や商店街との連携を図りながら市内外へ情報発信を行い、観光などの人の流れをつくりだし、市民とともにまちの活性化を進めます。

- (1) 国史跡指定を契機とした（仮称）「三木歴史・美術の杜^{もり}」イベントの開催
- (2) 三木市の歴史や文化にふれる既存イベントや神戸電鉄の事業と連携し、歴史ウォーク付城^{つげじろ}めぐりを開催
- (3) 金物や鍛冶屋鍋等に加え、新たな特産品や名物料理を開発し、食べ歩きとまち歩きをセットにした事業を展開し、観光ルートににぎわいを創出
- (4) 歴史的な町並みを保存、継承し、城址を含め周辺の店先や街角、公共施設などに共通ののれんやのぼり旗を設置して、城下町らしさを演出
- (5) 観光協会や観光事業者等と連携し、新たな企画や既存イベント、伝統的行事などの情報を全国に発信

第5章 三木歴史・美術の杜の整備イメージ(例)

ここでは検討委員会での意見をもとにした三木歴史・美術の杜の整備イメージ(例)を示します。

1 本丸跡

本丸跡は築山や石碑など三木城にかかわりのないものを移設または撤去し、遺構の一部復元を行い、市民が憩い、歴史を感じることでできる城址公園として整備を進めます。

- (1) 三木城の歴史に関係のある遺構等を保存、継承していけるよう整備します。
- (2) 一面を芝生広場とし、市民が親しみ憩える城址公園として整備します。
- (3) 高台に立地する眺望を活用し、市内や対面する付城が一望できるようにします。また、パノラマ写真表示板を設置し、付城跡をわかりやすく表示します。
- (4) 花見のできる公園として、許される範囲で桜、紅葉などの植栽を施します。

2 二の丸跡

老朽化が進んでいる旧三木高等女学校校舎など三木城にかかわりのないものは移設または撤去し、本丸と二の丸の空間的一体感を創出するとともに、遺構の一部を復元し、市民が集えるイベント広場や利用者の駐車場を設けた城址公園として整備を進めます。

また、図書館は、さらに利便性を図るため適地に移設し、その跡は、建物としての耐用年数が過ぎるまでの間を(仮称)「三木歴史資料館」として活用し、美術館と一体的な利用をすることにより、三木市の歴史や文化を発信します。

- (1) 三木城の歴史に関係のある遺構等を保存しつつ、本丸と二の丸の空間的繋がりをつくり出します。
- (2) 駐車場を兼ねたイベント広場の整備を行い、屋外イベントや屋外美術展などに活用します。
- (3) 現在の図書館を(仮称)「三木歴史資料館」として活用し、美術館と

一体的な活用を図ります。

3 周辺及び付城跡群

三木城址周辺の道路の狭さは、城に通じる道としての特徴であり、その景観を保っていることから拡幅等を行わないこととします。また、バス等による三木城址へのアクセスは、市役所前や観光協会横の駐車場を利用し、徒歩でのアクセスを基本とします。そのため、駐車場や最寄駅、また周辺地域の歴史・文化遺産や施設、商店街を取り込んだ回遊性のある散策ルートの設定やわかりやすい案内板、誘導サインなどの整備を進めます。

さらに、付城跡を巡るハイキングルートを設定します。

- (1) 城下に面した本丸と二の丸の周囲にはのぼり旗を設置するなど、城下から三木城址が認識できる工夫を行います。
- (2) 三木城址及び付城跡などへの案内板や誘導サインなどを整備し、上の丸駅、恵比須駅や周辺駐車場からアクセスしやすい環境づくりを進めます。
- (3) 三木城址及び付城跡群が体感できるような史跡整備を進めます。
- (4) 秀吉本陣跡を史跡公園として整備し、三木城址が望めるように立木の伐採を行っていきます。

4 整備イメージ図（三木城址ゾーン案）※「城下まちゾーン」「付城跡群ゾーン」についての整備イメージ図案は、今後作成していきます。



資料編

三木歴史・美術の杜構想の整備スケジュール及び概算総事業費（案）

◆整備スケジュール

年度 項目	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
「三木歴史・美術の杜」 構想策定 国指定意見具申・告示 保存管理計画策定	構想策定 H24.6 H24.7 国意見具申 ●● 国指定告示		史跡保存管理計画策定					
「三木歴史・美術の杜」 構想に基づく整備 （三木城址及び付城 の整備）			のぼり旗、案内誘導サイン設置		遺構確認調査及び遺構復元 付城整備（散策路、里山整備、市民トイレ）		芝生広場、景観整備	
現況施設の 移設・撤去			倉庫類等撤去			2階建校舎撤去		
（仮称）三木歴史資料館 の整備	図書館活性化構 想策定	図書館建設検 討委員会・実施設計	図書館 工事着手・完了		（仮称）三木歴史資料館 基本計画策定 実施設計 工事着手完了	資料館		

※「史跡保存管理計画」とは、史跡の保存管理について、文化財保護法に基づき2か年で策定することが原則とされている。

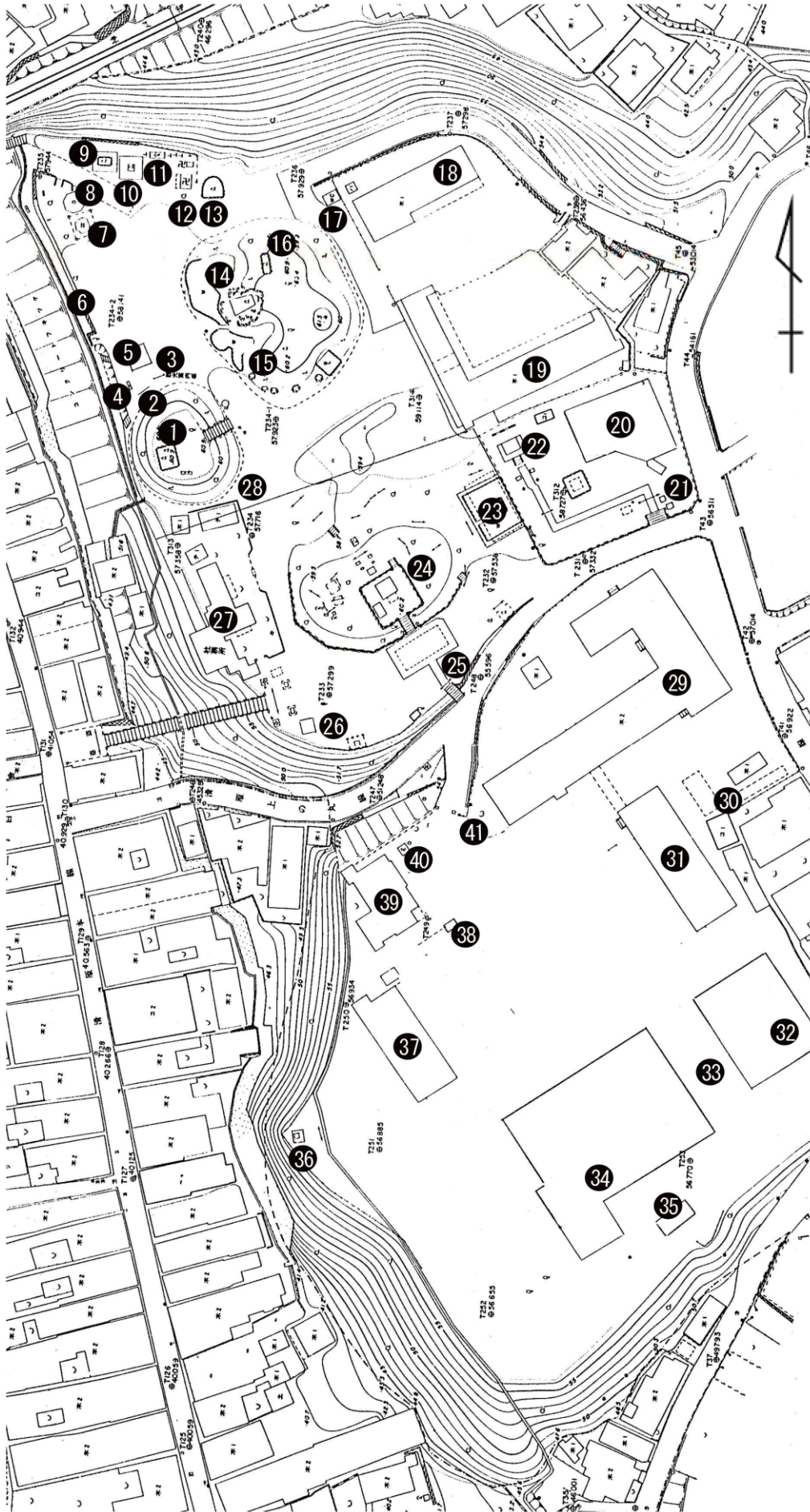
※保育所、金物資料館、堀光美術館及び石碑などについては、移設先も勘案して適時、移設又は撤去を行う。

◆概算総事業費

項目	内容	金額
三木城址及び 付城の整備	遺構復元、芝生広場景観整備 （周囲の雑木選定）、のぼり旗 案内・誘導サイン他	3億5,000万円 （内補助対象 2億8,000万円）
	付城の整備 （散策路、里山整備、市民トイ レ他）	5,000万円
	（仮称）三木歴史資料館の整備	5,000万円
現況施設の 移設・撤去	倉庫類、金城館、 2階建木造校舎他	1億3,000万円
小計		5億8,000万円
図書館の整備	図書館の新築	4億2,000万円
合計		10億円

※民有地買収費については、確定していません。
め、概算総事業費には含まれていません。

三木城址現況施設一覧表



番号	施設名
1	辞世の歌碑
2	三木城復元図
3	三木合戦図
4	400年記念之碑
5	東屋
6	城壁
7	かんかん井戸
8	国旗掲揚台
9	顕彰碑
10	慰霊碑(水没者)
11	地藏
12	祠
13	寿蔵碑(門人中)
14	忠魂碑
15	(慰霊)碑
16	(慰霊)碑
17	便所
18	三木市立上の丸保育所
19	三木市立金物資料館
20	三木市立金物資料館
21	空井戸
22	金物神社
23	堀
24	稻荷神社(社殿)
25	稻荷神社(拝殿)
26	滑原町屋台蔵
27	社務所
28	別所長治公騎馬像
29	旧上の丸庁舎(2階建校舎)
30	倉庫
31	平屋校舎
32	美術館
33	堀田光雄像
34	図書館
35	機械室
36	祠
37	プレハブ倉庫
38	三木分校の碑
39	釜城館
40	三木高創立60周年の碑
41	堀(防火水槽)

平成22年度 三木市 市民アンケート結果

実施時期 平成22年8月26日～9月10日

対象者 18歳以上の市民1,500人

回答数(回答率) 813人(52.4%)

※各設問において「無回答」は除いています。

1 あなたの性別について

1 男性	290人	35.9%
2 女性	517人	64.1%

計	807人	100.0%

2 あなたの年齢について

1 10歳代	8人	1.0%
2 20歳代	50人	6.2%
3 30歳代	102人	12.6%
4 40歳代	93人	11.5%
5 50歳代	175人	21.7%
6 60歳代	246人	30.4%
7 70歳代以上	134人	16.6%

計	808人	100.0%

3 お住まいの地域について

1 三木	212人	26.3%
2 三木南	29人	3.6%
3 別所	72人	8.9%
4 志染	51人	6.3%
5 細川	28人	3.5%
6 口吉川	15人	1.9%
7 緑が丘	108人	13.4%
8 自由が丘	152人	18.9%
9 青山	57人	7.1%
10 吉川	81人	10.1%

計	805人	100.0%

4 三木市では、三木城址(上の丸公園)と秀吉方の攻城(せめじろ)をセットで歴史的遺産として後世に継承するために、国の文化財指定に向け、準備を進めています。

国の文化財指定を受けると、三木城址に関係のない施設は、老朽化等に伴い撤去又は移転しなければなりません。

このことについてどう思われますか。(いずれか1つに○)

1 撤去又は移転はやむを得ない	404人	51.1%
2 できる限り撤去又は移転するべきでない	174人	22.0%
3 どちらともいえない	213人	26.9%

計	791人	100.0%

5 三木城址に人が集い、いこい、市民が誇れる史跡とするには、どのような整備が必要だと思われますか。(いくつでも○)

1 三木城址にゆかりのあるものなどを展示する歴史博物館	333人	26.0%
2 大甕群(おおがめぐん・食糧貯蔵庫)が出土した状態の展示	140人	10.9%
3 堀跡の復元	168人	13.1%
4 やぐら	127人	9.9%
5 大手門(城の正門)	225人	17.6%
6 わからない	286人	22.4%

計	1279人	100.0%

6 ナメラ商店街から三木城址(上の丸公園)へは急な坂道であるため、エスカレーターを整備し、利便性を向上することについてどう思われますか。(いずれか1つに○)

1 エスカレーターは必要である	84人	10.6%
2 エスカレーターは必要でない	491人	61.8%
3 どちらともいえない	220人	27.7%

計	795人	100.0%

平成23年度「歴史博物館」と「図書館」についての市民アンケート結果

- 1 対象 18歳以上の市民1,500人
 2 回答者数 653人
 3 回答率 43.5%

実施時期 平成23年8月17日～9月2日

【問1】性別

	回答者数 (B)	B/A*100	回答率 (回答者全体 に占める率)
1 男性	264	37.3%	40.4%
2 女性	389	49.0%	59.6%
合計	653	43.5%	100.0%

【問4】歴史博物館の整備について

	回答者数	回答率 (回答者全体 に占める率)
1 リニューアル	171	26.2%
2 他の場所に新築	73	11.2%
3 現図書館を活用	186	28.5%
4 必要ない	147	22.5%
5 わからない	65	10.0%
不明	11	1.7%
合計	653	100.0%

【問2】年齢

	回答者数 (B)	B/A*100	回答率 (回答者全体 に占める率)
1 10歳代	8	24.7%	1.2%
2 20歳代	34	19.8%	5.2%
3 30歳代	69	30.9%	10.6%
4 40歳代	97	39.0%	18.7%
5 50歳代	122	49.8%	18.7%
6 60歳代	200	60.5%	30.6%
7 70歳代以上	123	49.6%	18.8%
合計	653	43.5%	100.0%

【問5-1】図書館の整備について

	回答者数	回答率 (回答者全体 に占める率)
1 教育センターに移転	124	19.0%
2 それ以外に移転	29	4.4%
3 新築	222	34.0%
4 現状のまま	227	34.8%
5 わからない	46	7.0%
不明	5	0.8%
合計	653	100.0%

【問3】地域

	回答者数 (B)	B/A*100	回答率 (回答者全体 に占める率)
1 三木	169	44.9%	25.9%
2 三木南	19	17.0%	2.9%
3 別所	69	55.9%	10.6%
4 志染	49	86.2%	7.5%
5 細川	23	52.1%	3.5%
6 口吉川	17	46.9%	2.6%
7 緑が丘	97	54.1%	14.9%
8 自由が丘	112	36.0%	17.2%
9 青山	41	37.3%	6.3%
10 吉川	57	37.8%	8.7%
合計	653	43.5%	100.0%

【問5-2】図書館の新築場所について

	回答者数	回答率 (回答者全体 に占める率)	
1 市立三木山公園	46	20.7%	7.0%
2 市役所南側	61	27.5%	9.3%
3 市民病院跡	93	41.9%	14.2%
4 ホースランドパーク	3	1.4%	0.5%
5 県立三木山森林公園	12	5.4%	1.8%
6 その他	3	1.4%	0.5%
不明	4	1.8%	0.6%
合計	222	100.0%	34.0%

(注)

(注) 全体(653人)に占める新築(222人)の割合

歴史・美術の杜構想検討委員会の開催状況

開催日	回数	内 容
H23. 2. 21	第 1 回	1 三木歴史・美術の杜構想（素案）の概要について <ul style="list-style-type: none"> ・三木城跡及び付城跡群の国指定に向けて ・三木歴史・美術の杜構想（素案） ・平成 22 年度三木市市民アンケート集計結果 ・「三木歴史・美術の杜」構想づくりと「図書館の活性化」について ・「三木歴史・美術の杜」構想づくりに関する整備方針（案） 2 今後の進め方について <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・美術の杜構想検討委員会スケジュール
H23. 4. 14	第 2 回	1 三木城址の現地視察 2 意見交換
H23. 5. 25	第 3 回	1 気づきメモについて報告 2 目的と方針について
H23. 6. 20	第 4 回	1 ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ・三木歴史・美術の杜構想について
H23. 8. 17	第 5 回	1 前回ワークショップのまとめ 2 意見交換等
H23. 10. 24	第 6 回	1 アンケート結果報告について 2 政策に関する意見交換会について 3 構想（案）について
H23. 11. 30	第 7 回	1 構想（案）について
H24. 2. 8	第 8 回	1 構想（案）について

歴史・美術の杜^{もり}構想検討委員会 委員名簿

	氏 名	所 属 等	備 考
委員長	山 下 晃 一	神戸大学准教授	
委員	岡 本 孝 道	文化財保護審議会	
委員	石 田 満 美	美術館協議会	
委員	荒 井 裕	図書館協議会	
委員	赤 松 敬 一	三木市区長協議会連合会	
副委員長	永 尾 津 世 士	三木地区区長協議会	第1回
委員	澁 谷 博	三木地区区長協議会	第2回～8回
委員	長 尾 恵 猛	三木城下町まちづくり協議会	第1回
副委員長	永 尾 津 世 士	三木城下町まちづくり協議会	第2回～8回
委員	金 澤 正 樹	新町地区	
委員	山 口 種 啓	滑原地区	
委員	岩 崎 良 一	大手地区	
委員	石 田 安 夫	公募委員	
委員	安 田 久 子	公募委員	
委員	花 元 仁	公募委員	
委員	篠 原 政 次	教育部長	第1回
委員	椿 原 豊 勝	教育部長	第2回～8回

委嘱期間 平成23年2月21日から平成24年3月31日

【事務局】

松 村 正 和	教育部文化スポーツ振興課長
廣 井 愛 邦	教育部文化スポーツ振興課主査
成 瀬 拓 生	〃